

日本生命倫理学会
第 26 回年次大会
プログラム

<大会テーマ>

生命倫理学の新紀元へ
哲学および法制度との接続

- ◆会 期：2014 年 10 月 25 日(土)・26 日(日)
- ◆会 場：アクトシティ浜松 コンgressセンター
- ◆大会長：森下 直貴（浜松医科大学 教授）

日本生命倫理学会

ご挨拶

大会長 森下 直貴（浜松医科大学）

生命倫理（バイオエシックス）が登場して以来、日本ではほぼ30年が経過しました。発祥地の米国ではすでに50年近くの歳月が流れています。その間、バイオエシックスは新たな医療倫理として受け入れられ、日本の社会にも鮮烈な影響を及ぼし、新参者ゆえの困難に直面しつつも、徐々に定着してきたといえます。ところが、いわゆるバイオエシックスにはもともと複数の異質な要素が抱え込まれ、そこに一定の矛盾が伏在していることは、これまで注目されても本格的に論じられることはありませんでした。しかし現在、特定の1つの理念によって統一されるようなこれまでの枠組みでは、すでにそうした矛盾を覆い隠すことができなくなっているように思います。

ここにいう「複数の異質な要素」とは、第1に、19世紀以来の（感染症を中心にした）研究倫理の到達点、第2に、1960年代の政治運動によって要求された平等化、第3に、20世紀の組織された医療環境（慢性疾患）における患者へのケア、そして第4に、第二次科学革命の成果である分子生物学とバイオテクノロジーの影響です。とくに問題となるのは、最後の要素、つまり、生化学反応ネットワークとしての人間観とゲノム操作可能性が、「現在の個人の特定の症状」という単位とその背後にある近代的人間観に抵触し、もはやそこに回収できなくなっているという事態です。

そこで、本学会の来るべき四半世紀に向けてあらためて問いたいと思います。広義の生命倫理（バイオエシックス）とは、（産業＝政治＝教育のシステムと関連した）科学システムと技術システムの相互浸透、およびそのデジタル化によって、全体社会の構造連関や、組織、人間および自然環境が深甚な影響を受け、変容を促されるという事態に関わる事柄ではないのか。これに対して狭義の「いわゆるバイオエシックス」とは、分子生物学とバイオテクノロジーの影響をとり込んだ医療倫理のことであり、本来なら「バイオ・メディカルエシックス」と称すべきではなかったのか。そして21世紀の今日、医療倫理は新たに本格的なバイオの段階（リスク予防医学と確率情報の倫理）を迎えているのではないか。

いま必要とされるのは、21世紀の現段階に相応しい生命倫理学の進路を見定めつつ、社会や人間や自然への接続を探ることだと考えます。今回の大会では、そのような趣旨をふまえて、特別講演、基調講演、大会企画ならびに学会企画のシンポジウムを計画しました。もとより、大会の趣旨との関連の有無にかかわらず、多様な公募シンポジウムやワークショップ、一般演題の口演やポスター発表が予定されています。皆様の活発なご議論を切に期待する次第です。

第26回年次大会実行委員会

大会長	森下 直貴	（浜松医科大学）
実行委員長	佐藤 芳	（藤田保健衛生大学）
大会企画委員長	塚田 敬義	（岐阜大学）
事務局長	有江 文栄	（上智大学）
企画担当	松田 純	（静岡大学）
	梶村 春彦	（浜松医科大学）
広報担当	河原 直人	（九州大学）
庶務担当	木山 幹恵	（常葉大学）
学会企画委員長	武藤 香織	（東京大学）
学会事務局長	足立 智孝	（亀田医療大学）

参加者へのお願い

1. 参加申し込みについて

お申し込み方法および参加費（予稿集代含む）は以下の通りです。

【事前登録】

- 払込用紙（同封）に必要事項をご記入の上、9月16日（火）までに参加費をお支払いください。
- お名前のうしろに括弧書きにてご所属を記入してください。
- 払込用紙に記載されたご住所宛に、9月中旬より順次予稿集をお送りします。

- 会 員―― 6,000 円
- 非会員―― 7,000 円
- 学 生―― 2,000 円（大学院生を除く）

【当日申込】

- 原則として事前登録（口座振込）にてお申し込みをお願いいたします。
- やむを得ない事情により事前登録できなかった方は、当日会場内の受付（4F メインロビー）にてお申し込みください。

- 会 員―― 6,500 円
- 非会員―― 7,500 円
- 学 生―― 2,000 円（大学院生を除く）

※なお、予稿集のみ別途ご希望の場合は、当日受付にて1冊1,000円で販売しております。

2. 当日の受付について

- 大会当日は4F メインロビーにて下記の時間に受付を行います。
- 当日お申し込みの方は、受付で参加証をお受け取りください。

10月25日（土） 8:00 ～15:30

10月26日（日） 8:00 ～13:30

3. クロークについて

- 1F エントランスロビーにクロークを用意しております。
- 当日お申し込みの方は受付で参加証を受け取ってからご利用ください。
- ご利用いただける時間帯は25日（土）8:00～20:10、26日（日）8:00～16:10です。

4. 昼食について

- 本大会ではお昼のお弁当をご用意いたします。事前登録の際に振込用紙の所定の欄にご記入のうえ、お支払いをお願いします。なお、緑茶ペットボトル付きで1,200円を予定しております。
- 会場内での昼食はB会場（3F・31）をご利用ください。
- 本大会中、3F プラザロビーにてコーヒーや紅茶、お茶等のサービスがあります。
- お弁当を注文されない場合、近隣のレストラン等ご利用できます。同封のマップを参考にしてください。

5. 懇親会について

- 懇親会は、25日（土）18:00～20:00にA会場（4F・41）にて開催いたします。
- 懇親会費は5,000円です。参加ご希望の方は、事前登録の際にお申し込みとお支払いも一緒をお願いいたします。当日も受け付けますが、原則として事前にお申し込みください。

6. 評議員会・理事会・総会について

以下の日時・会場で行われる予定です。

評議員会：25 日（土）12:25～13:15 F 会場（2F・21）

理 事 会：26 日（日） 7:30～ 8:50 F 会場（2F・21）

総 会：26 日（日）12:20～13:30 B 会場（3F・31）

※総会はランチョン会議となります（食事は各自でご用意ください）。

お弁当を予約された方は 3F プラザロビーにてお受け取りのうえ、総会会場にお入りください。

7. 新規入会ならびに年会費納入について

- 日本生命倫理学会事務局のデスクを 4F メインロビーに設けます。
- 入会に関するお問い合わせや年会費のお支払いはこちらでお願いいたします。

8. 宿泊について

- 年次大会ホームページの宿泊施設情報をご覧ください。リンクされている JTB を通じて Web 登録していただけますと、宿泊延べ人数を確認することができ、その数に応じて浜松市から補助金をいただけることになっています。その補助金は大会の運営上たいへん助かりますので、ご協力いただけるか、または、かりに Web を通さないで予約された場合には大会事務局（jab）までご一報いただけますと、幸いに存じます。

9. 駐車場・託児室について

- 駐車場の設備があります。アクトタワーの案内をご覧ください。
- 障害者専用駐車場のご利用を希望される方は、事前登録時に振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。
- 託児室のご利用を希望される方は、会場内に託児所を設けます。詳しくは年次大会ホームページ：<http://www.fujita-hu.ac.jp/~t-sato/jab2014/>「託児サービスのご案内」をご覧ください。

10. その他

- 原則として館内呼び出しはいたしません。4F メインロビーの掲示板をご利用ください。
- 会場内は禁煙です。喫煙は指定された喫煙所（当日掲示します）にてお願いいたします。
- 会場内での写真撮影、ビデオ録画、録音、取材等は、知的財産権に配慮し、発表者の許可を得て行ってください。
- 会場内でのコピーには対応しかねます。各自、必要に応じてコンgresセンター事務局か近隣のコンビニエンスストア等をご利用ください。
- 館内では WiFi をご利用できます。
- 年次大会ポスターは年次大会ホームページよりダウンロードできます。

シンポジウム、ワークショップ、一般演題（口演・ポスター）の発表について

★ 議論の時間を十分に確保するため、時間厳守をお願いいたします。

1. シンポジウム、ワークショップ、一般演題（口演）について

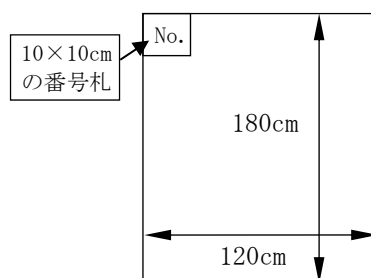
- 各会場にベル係を配置し、演者が登壇した瞬間からストップウォッチで時間計測を開始し、原則として三回ベルを鳴らします。
 - 配布資料がある場合は、適宜ご自身で印刷・配布・管理をお願いいたします。年次大会事務局で承ることはできません。
- (1) 今大会でもシンポジウムとワークショップのやり方を区別しています。
- シンポジウムは従来の形式に準じ、90分のうち、報告時間が60分以内、フロアを交えたディスカッションが30分以上となります。
 - ワークショップは、90分のうち、報告時間が45分以内、フロアを交えたディスカッションが45分以上となります。ディスカッションでは、オーガナイザーはフロアとのコミュニケーションを重視して進行してください。
- (2) 一般演題（口演）は1演題あたり20分のうち、原則として発表10分、質疑応答10分になります。

2. パソコンによるプレゼンテーションについて

- ご発表の60分前までに4FメインロビーのPC受付にお越しください。
- 一般講演（口演）の演者はPC受付でUSBメモリをお渡しください。その場で発表データの試写や動作確認を行います。PC受付ではWindows7のPowerPoint2003/2007/2010/2013を準備しています。解像度は1024×768です。お預かりしましたデータは学会終了後、責任をもって消去します。また、マックパソコンによる発表も可能です。そのさいはご自分のパソコンをお持ちください。
- シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーの方は、ご担当セッションの全演者の発表データを入れ、事前に動作チェックをしたご自分のパソコンをお持ちください。PC受付にて試写を行ってから会場で接続します。
- 会場でご用意するケーブル（接続端子）はD-sub15pinです。マックパソコンでは変換コネクタが必要になりますので、必ずお持ちください。
- 電源トラブル防止のため、ACアダプターを必ずお持ちください。また、あらかじめスクリーンセーバーおよび省電力設定「なし」に設定しておいてください。
- 音声が必要な方は事前にご連絡ください。

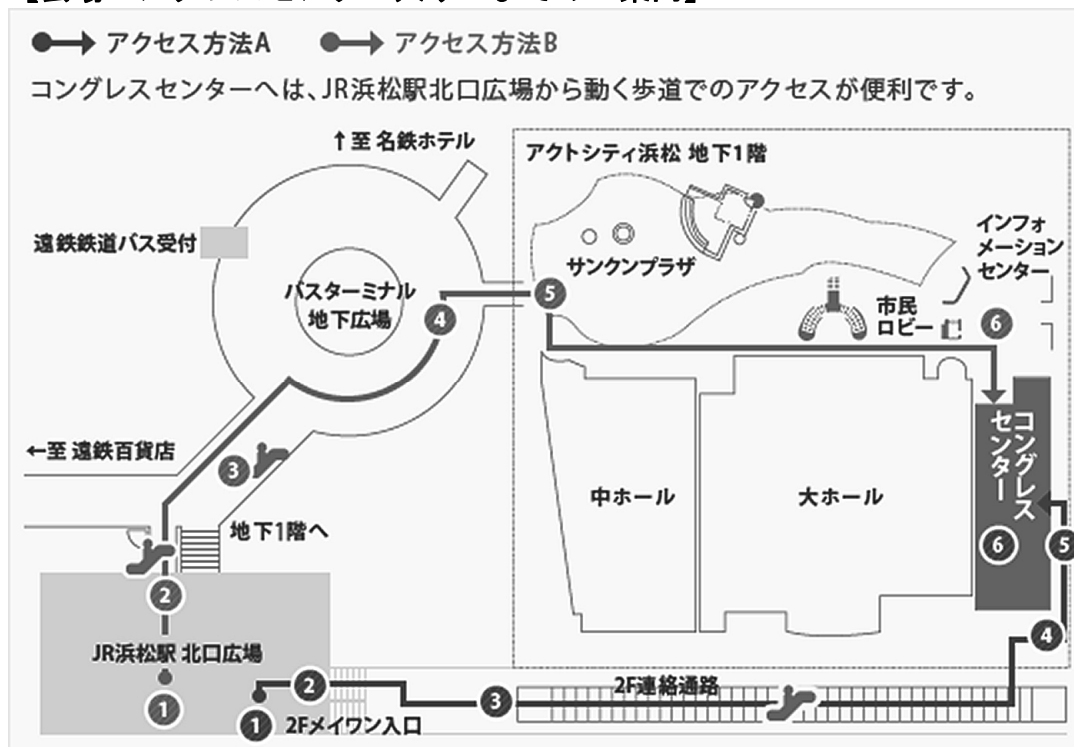
3. ポスター発表について

- ポスター発表者は、10月25日（土）発表の60分前までに、4Fメインロビーの演者受付にお越し下さい。パネルの大きさは120cm（横）×180cm（縦）です。
- ご発表の10分前までに3Fプラザロビーに設置されたパネルに、左上に演題番号を標示したポスターを掲示してください。押しピンは会場に用意いたします。
- ポスター発表の時間帯（12:40～13:10 および 15:30～16:00）にご自身のポスターの前で待機してください。その際は会場責任者の指示に従ってください。
- 掲示は10月26日（日）13時40分までとします。大会終了後、撤去されていないポスターは事務局で処分しますのでご了承ください。



会場へのアクセス

【会場コンgressセンター入り口までのご案内】



【会場までの交通アクセス：電車でお越しの方】



JAB2014浜松大会 / タイムテーブル

第1日目 10月25日(土)

	A会場 (4F・41)	B会場 (3F・31)	C会場 (4F・43-44)	D会場 (5F・52-54)	E会場 (2F・22-23)	F会場 (2F・21)	ロビー (3F)	
9:30	開会式	受付は4Fメインロビー 8:00～ クロークは1Fエントランスロビー						
9:40	大会長講演							
10:40								
	休憩							
10:50	大会企画シンポジウム I 生命倫理と医療倫理	会員控え室	公募シンポジウム I 介護専門職育成 における生命倫 理教育の在り方 について考える	一般演題 I 研究倫理 ほか	公募WS I 終末期医療にお ける治療方針			
12:20							評議会	12:40 ポスター①
12:20	＊ 昼食はB会場 3Fプラザロビーにてお渡し ポスター発表① 12:40～13:10 3Fプラザロビー							13:10
13:20	大会企画シンポジウム II ①特別講演	会員控え室						
14:10	②シンポジウム 生殖医療基本法の 意義と課題	会員控え室			14:20 一般演題 II 介護福祉 ほか	14:20 公募WS II 「組織」という次元 の倫理		
15:20	休憩				15:40	15:50	15:30 ポスター②	
15:20	ポスター発表② 15:30～16:00 3Fプラザロビー						16:00	
16:10					17:50			
16:10		公募シンポジウム II 生命と尊厳	公募シンポジウム III 変革期の 倫理審査委員会	一般演題 III 臨床倫理 ほか		公募WS III ヒトES細胞の 倫理再考	公募WS IV 次世代研究者の ための教科書の 作成を通じた学問 的方法論の構築	
17:40	休憩							
18:00 20:00	懇親会							

第2日目 10月26日(日)

第2日目 10月20日（日）								
	A会場 (4F・41)	B会場 (3F・31)	C会場 (4F・43-44)	D会場 (5F・52-54)	E会場 (2F・22-23)	F会場 (2F・21)	ロビー (3F)	
7:30	受付は4Fメインロビー 8:00～						理事会	
9:00		若手論文奨励賞 受賞者を囲んで	公募シンポジウム IV 最先端生命科学 を取り巻く諸問題 と科学発展のあり方	一般演題 IV 先端医療技術 医療情報 ほか	公募WS V なぜアドバンス ケアプランニング なのか	公募WS VI 研究倫理支援の 世界へようこそ		
10:30								
	休憩						10:30	
10:40	大会企画シンポジウム III 研究不正と対策の「く り返し」を超えられる か？ 基調講演	会員控え室	公募シンポジウム V 在宅医療と介護 の倫理と法	一般演題 V 生殖医療 ほか	公募シンポジウム VI 生命倫理の専門 分化と全体像	公募シンポジウム VII 医療経済評価に おける倫理的課題	ロボットス ーツほ か展 示	
12:10								
	* 昼食は3Fプラザロビーにてお渡し							
12:20		ランチョン総会	* 昼食は3Fプラザロビーにてお渡し					
13:30								
	休憩							
13:40	学会企画シンポジウム 臨床研究(医療)の 商業化		公募シンポジウム VIII 再生医療の生命 倫理ガバナンス 15:10	一般演題 VI 終末期医療 ほか 15:30	公募シンポジウム IX 卵子提供における 収奪構造 15:10	公募WS VII 研究施設におけ る人由来資料の 取扱いに関する ガイダンスの検討 15:10	15:00	
15:40								
15:50	閉会式							

第 26 回 日本生命倫理学会年次大会 プログラム

第 1 日目 10 月 25 日 (土)

A 会場 (4F ・ 41 会議室)

9:30～ 9:35 開会挨拶 大会長：森下 直貴 (浜松医科大学)

9:40～10:40 大会会長講演 大会長：森下 直貴 (浜松医科大学)

生命倫理と生命倫理学

座長：佐藤 労 (藤田保健衛生大学)

10:50～12:20 大会企画シンポジウム I

生命倫理と医療倫理

座長：森下 直貴 (浜松医科大学)、佐藤 労 (藤田保健衛生大学)

メタ・バイオエシックスの立場から (仮)	小松 美彦 (武蔵野大学)
功利主義倫理学の立場から (仮)	児玉 聡 (京都大学)
バイオエシックス市民運動の立場から (仮)	空閑 厚樹 (立教大学)

13:20～14:10 大会企画シンポジウム II ①特別講演

生殖医療基本法の意義と課題

野田 聖子 衆議院議員 自由民主党総務会長
生命倫理と生殖技術について考える会事務局長
座長：塚田 敬義 (岐阜大学)

14:10～15:20 大会企画シンポジウム II ②シンポジウム

生殖医療基本法の意義と課題

座長：仁志田 博志 (東京女子医科大学)、塚田 敬義 (岐阜大学)

生殖医学の立場から (仮)	菅沼 信彦 (京都大学)
医療法学の立場から (仮)	大磯 義一郎 (浜松医科大学)
比較生命倫理学の立場から (仮)	仙波 由加里 (桜美林大学)

18:00～20:00 懇親会

B 会場（3F・31 会議室）

12:20～13:20 昼食

16:10～17:40 公募シンポジウムⅡ

生命と尊厳

オーガナイザー：大西 香代子（園田女子大学）
報告者：殿村 壽敏（元大阪保護観察所）
牧野 英之（榊原病院）
伊賀 興一（伊賀・笠松法律事務所）

C 会場（4F・43-44 会議室）

10:50～12:20 公募シンポジウムⅠ

介護専門職育成における生命倫理教育の在り方について考える —日本での教育実践の試みとドイツ・デンマークでの研修を踏まえて—

オーガナイザー：中村 裕子（聖隷クリストファー大学）
報告者：田家 英二（鶴見大学短期大学部）
田島 一樹（東松山市社会福祉協議会）
中村 裕子（聖隷クリストファー大学）

16:10～17:40 公募シンポジウムⅢ

変革期の倫理審査委員会：これから 10 年の課題

オーガナイザー：田代 志門（昭和大学）
報告者：玉腰 暁子（北海道大学）
山本 精一郎（国立がん研究センター）
松井 健志（国立循環器病研究センター）

D 会場（5F・52-54 会議室）

10:50～12:20 一般演題Ⅰ（口演）

10:50-10:55 座長挨拶：矢野 圭介（岐阜経済大学）

10:55-11:15 眼科疾患における幹細胞臨床研究の倫理的問題

高嶋 佳代（東京大学）

田代 志門（昭和大学）

武藤 香織（東京大学）

11:15-11:35 降圧剤研究不正事案をきっかけとする臨床研究改革
—日本高血圧学会の対応を中心として—

位田 隆一（同志社大学）

11:35-11:55 病気・医療の情報に関するリテラシーを育て多様な健康状態と共存する方法
を考える：ドイツにおける自律して決断し積極的に病と長期的に付き合える
患者・市民・医療従事者を育てる試み（Patienten coaching）を例に
青山 彌紀（ドイツ日本研究所）

- 11:55-12:15 **患者の視点からの医薬品評価**
—北部タイ・ARV 治療における「医療者—患者」間関係の諸相から—
 日野 智豪 (早稲田大学)
- 12:15-12:20 座長総括

15:40～17:50 一般演題 III (口演)

- 15:40-15:45 座長挨拶：土屋 貴志 (大阪市立大学)
- 15:45-16:05 **「新型出生前診断」をめぐるドイツの生命政策**
 小椋 宗一郎 (東海学院大学)
- 療養型病院におけるケア実践にみられるリスク認識と意思決定**
 山崎 吾郎 (大阪大学)
- 臨床業務におけるプラシーボ投薬に対するある3病院の薬剤師の意識調査**
 中田 亜希子 (東邦大学)
 田中 美穂 (東邦大学)
 小松 明 (帝京大学)
- 医療倫理コンサルテーションの実践および研究課題**
—術前・術後のインフォームドコンセントの不備による医療インシデント
ケースを通して—
 金山 昭夫 (東京都立 北多摩看護専門学校)
- 臨床倫理学における対話の意味**
 服部 健司 (群馬大学)
- ナラティブを活用した看護実践の倫理を考える方法とその意義**
 鶴若 麻理 (聖路加国際大学)
 麻原 きよみ (聖路加国際大学)
- 17:45-17:50 座長総括

E 会場 (2F・22-23 会議室)

10:50～12:20 公募ワークショップ I

- 終末期医療における治療方針**
—決定要因と共同意思決定の可能性
 オーガナイザー：櫻井 浩子 (大阪大学)
 報告者：齋藤 信也 (岡山大学)
 板井 孝吉郎 (宮崎大学)
 加部 一彦 (愛育病院)

14:20～15:50 一般演題 II (口演)

- 14:20-14:25 座長挨拶：徳永 哲也 (長野大学)
- 14:25-14:45 **介護福祉系大学における介護倫理に関する教育内容の分析**
—シラバスの記述内容分析を通して—
 角田 ますみ (杏林大学)
- 14:45-15:05 **都市部及び農村地域における高齢者の孤立化に関する一考察**
 船木 祝 (札幌医科大学)
 山本 武志 (札幌医科大学)
 旗手 俊彦 (札幌医科大学)
 栗屋 剛 (岡山大学)

- 15:05-15:25 生活保護受給女性における人工妊娠中絶が内包する問題の分析
比名 朋子 (川崎医科大学附属病院)
中井 祐一郎 (川崎医科大学附属病院)
- 15:25-15:45 世紀転換期の Public Bath Movement と近代日本における公設浴場設立過程にみる身体観と道徳観
川端 美季 (日本学術振興会)
- 15:45-15:50 座長総括

16:10～17:40 公募ワークショップⅢ

ヒトES細胞の倫理再考

- オーガナイザー：山本 圭一郎 (東京大学)
報告者：阿久津 英憲 (国立成育医療研究センター)
井上 悠輔 (東京大学)

F 会場 (2F・21 会議室)

12:20～13:20 評議会

14:20～15:50 公募ワークショップⅡ

「組織」という次元の倫理 —病院組織倫理からのアプローチ—

- オーガナイザー：服部 俊子 (大阪市立大学)
報告者：大北 全俊 (大阪大学)
芥川 茂 (市立池田病院)
桎本 直樹 (大阪大学)

16:10～17:40 公募ワークショップⅣ

次世代研究者のための教科書の作成を通じた学問的方法論の構築：「方法論カタログ化プロジェクト」からの挑戦

- オーガナイザー：伊吹 友秀 (独立行政法人国立精神・神経医療研究センター)
報告者：伊吹 友秀 (独立行政法人国立精神・神経医療研究センター)
岩江 荘介 (京都大学)
中澤 栄輔 (東京大学)

3F ロビー

12:40～13:10、15:30～16:00 一般演題ポスター発表 ① ②

災害時（被災者）の調査研究に対する倫理審査の現状に関する調査

- 飯島 祥彦 (名古屋大学)

臨床研究・診療の倫理コンサルテーションと質評価の試み

- 會澤 久仁子 (国立循環器病研究センター)
中田 はる佳 (国立循環器病研究センター)
遠矢 和希 (国立循環器病研究センター)
松井 健志 (国立循環器病研究センター)

臨床試験・治験に対する患者の認識と経験

- 中田 はる佳 (東京大学)
吉田 幸恵 (東京大学)
武藤 香織 (東京大学)

ゲノム解読等による診断の実用化に当たっての課題と対応について

佐藤 真輔 （文部科学省研究振興局 / 東京大学）

死産を体験した母親の思いとニーズ

～流産域の母親のフォーカスグループインタビュー～

渋谷 えみ （茨城キリスト教大学）

代理懐胎における分娩者が母ルールの検討

貞岡 美伸 （立命館大学）

終末期に備えるための生涯学習の一考察

福田 千加子 （早稲田大学）

認知症患者の徘徊による行方不明を経験した家族の苦闘

横瀬 利枝子 （早稲田大学）

薬局薬剤師の在宅医療参画が困難な地域に必要な法制度改革

吉田 啓太郎 （九州保健福祉大学）

**自分の望む生き方について語り合う力を育成する市民参加型研修の試み
—成果評価の分析から**

関本 仁 （千葉大学）

長江 弘子 （千葉大学）

池本 典子 （千葉大学）

地方都市中核病院での IRB の実情 ～より良い IRB 運営を考える～

本間 陽一郎 （聖隷浜松病院 / 帝京大学）

山本 秀樹 （帝京大学）

A 会場 (4F・41 会議室)10:40～12:10 大会企画シンポジウムⅢ**研究不正と対策の「くり返し」を超えられるか**

座長：美馬 達哉（京都大学）、森下 直貴（浜松医科大学）

基調講演 研究不正の背景と対策

大西 隆（豊橋科学技術大学長、第22期学術会議会長）

医学部の研究者の視点

梶村 春彦（浜松医科大学）

生命倫理学者の視点

井上 悠輔（東京大学）

13:40～15:40 学会企画シンポジウム**臨床研究（医療）の商業化**

座長：佐倉 統（東京大学）、山邊 昭則（東京大学）

ロボットをめぐる倫理問題の概論（仮）

虫明 茂（就実大学）

開発者の立場から（1）福祉系ロボット（仮）

川口 孝泰（筑波大学）

開発者の立場から（2）構成的ロボット倫理学

浅田 稔（大阪大学）

BMI をめぐる倫理的課題

磯部 太一（北海道医療大学）

B 会場 (3F・31 会議室)9:00～10:30 若手論文奨励賞受賞者を囲んで**親には最善の子供を産む義務があるか****—PGD をめぐる—論争の批判的考察—**

伊吹 友秀（独立法人国立精神・神経医療研究センター）

台湾における終末期医療の議論と「自然死」の法制化**—終末期退院の慣行から安寧緩和医療法へ—**

鐘 宜錚（立命館大学）

座長 柘植あづみ（学会研究委員会委員長）

12:20～13:20 総会（ランチョン会議）**C 会場 (4F・43-44 会議室)**9:00～10:30 公募シンポジウムⅣ**最先端生命科学を取り巻く諸問題と科学発展のあり方**

オーガナイザー：四ノ宮 成祥（防衛医科大学校）

報告者：河原 直人（九州大学）

佐倉 統（東京大学）

遠藤 悟（独立行政法人日本学術振興会）

田中 幹人（早稲田大学）

大岩 ゆり（朝日新聞社）

10:40～12:10 公募シンポジウム V

在宅医療と介護の倫理と法 ―地域医療をどう支えるか―

オーガナイザー：松田 純 (静岡大学人文社会科学部)

報告者：青田 安史 (常葉大学)

古田 精一 (北海道薬科大学)

高井 由美子 (吉永医院)

宮下 修一 (静岡大学)

13:40～15:10 公募シンポジウム VIII

再生医療の生命倫理ガバナンス

―再生医療新法の倫理的・医学的・法的評価と課題―

オーガナイザー：位田 隆一 (同志社大学)

報告者：位田 隆一 (同志社大学)

森崎 隆幸 (国立循環器病研究センター)

一家 綱邦 (京都府立医科大学)

D 会場 (5F・52-54 会議室)

9:00～10:30 一般演題 IV (口演)

9:00-9:05 座長挨拶：霜田 求 (京都女子大学)

9:05-9:25 生殖細胞系の高精度遺伝的改変技術の進展と倫理的、法的、社会的課題
石井 哲也 (北海道大学)

9:25-9:45 現在および将来の移植技術に対する一般市民の意識

大北 全俊 (国立循環器病研究センター / 大阪大学)

Erika Hsu (国立循環器病研究センター / University of California)

會澤 久仁子 (国立循環器病研究センター)

中田 はる佳 (国立循環器病研究センター / 東京大学)

松井 健志 (国立循環器病研究センター)

9:45-10:05 「先制医療」における生命倫理的問題について

村岡 潔 (佛教大学)

10:05-10:25 サービスとして行われる医療情報提供における問題
―「医療サービス」と「医療消費者」―

木内 さゆり (早稲田大学)

10:25-10:30 座長総括

10:40～12:10 一般演題 V (口演)

10:40-10:45 座長挨拶：加藤 太喜子 (岐阜医療科学大学)

10:45-11:05 日本における不妊医療研究の系譜

由井 秀樹 (立命館大学)

11:05-11:25 生殖補助医療規制の構築における「子どもを持ちたいという欲望」

小門 穂 (大阪大学)

11:25-11:45 戦後日本における障害者への強制不妊手術に関する研究

利光 恵子 (立命館大学)

11:45-12:05 1950～60年代の日本の乳児保護における生命倫理
―乳児の人体実験と未熟児の養育医療―

吉田 一史美 (立命館大学)

12:05-12:10 座長総括

13:40～15:30 一般演題 VI (口演)

- 13:40-13:45 座長挨拶：盛永 審一郎（富山大学）
- 13:45-14:05 人格概念の再考—ミヒャエル・クヴァンテを導きの糸として
瀬川 真吾（一橋大学）
- 14:05-14:25 ルクセンブルクにおける終末期医療に関する法的枠組みの検討
—2009 年緩和ケア法の分析から
小林 真紀（愛知大学）
- 14:25-14:45 重度遷延性意識障害患者への治療制限の是非
—できる限り生存したいという意思があっても—
福原 徹（独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター）
- 14:45-15:05 Japanese Mind Cure の医学哲学, 1926 - 2012 年
—近代日本の身体観と医学哲学への史的検討—
田野尻 哲郎（東京大学）
- 15:05-15:25 安楽死の比較文化論を構想する
—小野 清一郎の安楽死論の検討を通して—
寿台 順誠（早稲田大学）
- 15:25-15:30 座長総括

E 会場（2F・22-23 会議室）

9:00～10:30 公募ワークショップ V

なぜアドバンスケアプランニング（Advance Care Planning : ACP）なのか

- オーガナイザー：鶴若 麻理（聖路加国際大学）
土田 友章（早稲田大学）
報告者：足立 智孝（亀田医療大学）
角田 ますみ（杏林大学）
寿台 順誠（早稲田大学）

10:40～12:10 公募シンポジウム VI

生命倫理の専門分化と全体像

- オーガナイザー：旗手 俊彦（札幌医科大学）
報告者：旗手 俊彦（札幌医科大学）
松井 健志（国立循環器病研究センター）
櫻井 晃洋（札幌医科大学附属病院）
長尾 式子（神戸大学大学院保健学研究科）

13:40～15:10 公募シンポジウム IX

卵子提供における収奪構造

—ドキュメンタリーフィルム『卵子提供：美談の裏側』による問題提起—

- オーガナイザー：柳原 良江（東京電機大学）
報告者：入江 公康（武蔵野美術大学）
司会：小椋 宗一郎（東海学院大学）

F 会場（2F・21 会議室）

7:30～ 8:50 理事会（朝食会）

9:00～10:30 公募ワークショップ VI

研究倫理支援の世界へようこそ！

オーガナイザー：武藤 香織 （東京大学）
報告者：會澤 久仁子 （国立循環器病センター）
岩江 莊介 （京都大学）
飯島 祥彦 （名古屋大学）
鈴木 美香 （京都大学）

10:40～12:10 公募シンポジウム VII

医療経済評価における倫理的課題 ―手続き的正義と市民参加―

オーガナイザー：齋藤 信也 （岡山大学）
報告者：児玉 聡 （京都大学）
白岩 健 （国立保健医療科学院）

13:40～15:10 公募ワークショップ VII

研究施設における人由来資料の取扱いに関するガイダンスの検討

オーガナイザー：佐藤 恵子 （京都大学）
報告者：佐藤 恵子 （京都大学附属病院）
鈴木 美香 （京都大学）
児玉 聡 （京都大学）

3F ロビー

10:30～15:00 ロボットスーツ展示